

麻生区区民会議 第13回若い世代が住みやすいまちづくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年12月25日（金）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]金光委員、白井委員、菅野委員、高橋委員、山田委員、吉垣委員
（欠席）石井委員、上野委員、梶委員、志村委員
[事務局] 企画課 井上課長、白石担当係長、佐藤 [コンサルタント] 佐藤
- 4 傍聴者 1名
- 5 議 事

（1）調査審議課題の検討について

①報告書の目次構成について

コンサルタントから説明。

【主な意見】

- ・最初の方向性にいくまでの議論について、こういった意見が出ていたのか、その辺りも記載が必要ではないか。
- ・最初は多くの意見が出ており、広範囲に捉えていたものを、どうやって絞り込んだのか、その経緯も盛り込む必要があるのでは。
- ・今までの論点の整理も記載があると良い。

②提言の内容について

コンサルタントから、提言の内容について、誰がどうやるべきなのか、誰に対しての提言なのか、具体的な検討が必要である旨説明。

◎魅力のPRについて

【主な意見】

- ・今の提言内容では、これといった目玉の提言がない。
- ・的を絞った方向・内容・対象を明確にしていく必要がある。
- ・提言先として、区だけでなく、区民や団体（観光協会など）にも訴えかけていく必要があるのではないか。
- ・ブランド・キャッチフレーズを検討するときに、それが子育て世代に通じるものであるのか。
- ・子育てしやすい環境といったときに、それを具体的に示すものが必要である。→前回の第4期にて子育てフェスタを作り上げていく過程で既に審議をしているので、それを活用してはどうか。
- ・麻生区では自主保育が多いと言ったときに、他区との比較があるとわかりやすいのではないか。
- ・現在使用されている看板などについて、魅力やブランドをわかりやすく表示するとよいのでは。また、統一感が必要。麻生区のテーマカラーやデザイン検討する必要があるのでは。
- ・麻生区の色などを統一して使用していくとよいのではないか。現在景観形成方針では、新百合ヶ丘駅周辺の建物は、主にベージュ系の色を使用している。そういった色を区の色として定め、広げていけばよいのではないか。
- ・田舎のある都会について、田舎はひらがなの方がよいのではないか。
- ・麻生区の都会の中身としては、交通の便が良いことや整ったまちなみを指す。

- ・いなかについて、スローライフ、田園を楽しむことができるまちなのだということがわかるとよいのではないか。
- ・いなかの概念として、山・川・緑を想像するが、昔の人は、その人の生まれ育ったところという認識がある。
- ・キャッチフレーズについて、最初からいなかのある都会と明示せず、今後公募をして決めていく中で、あくまで例として出す程度でよいのではないか。
- ・麻生区の全体として、比較的新しく出来たまちであり、恵まれていることから、危機感があまりないのではないか。そのことから、未来では安心できないということを指摘し、区民自身に自覚を持ってもらうことが重要である。

◎空き家の利活用について

- ・行政が最初に働きかけ、自治会などに空き家の情報提供を促し、その空き家情報をNPOなどに流していくことで、空き家を使いたい人とうまく繋げることができるのではないか。ただし、個人情報取り扱いには注意が必要であり、町会によっては情報を開示しないところがある。
- ・介護等の問題について、金程富士見町会では、助けてもらいたい人には自分から手を挙げてもらう方式を取り、うまく機能している。
- ・若者が住むことに抵抗がある地域もあるかもしれないが、地域へ若者に住んでもらうための仕組みなのだとすることを、問題意識を区民にも共有し理解してもらうことが重要である。
- ・子育てフェスタの結果に人間関係が良いという結果があるので、その辺りに触れていくとよいのではないか。
- ・そういった空き家の事例について、モデルとなる町内会などで実施して実情を聞き、対応を考えていくとよいのではないか。

③フォーラムについて

菅野委員からフォーラムのスケジュールなどについて説明。

【主な意見】

- ・講師の紹介は誰がどのタイミングで行うのか。→司会か委員長が紹介することになるかと思うが、企画部会にておいて検討する。
- ・当日の手伝いについては、基本全委員が協力をするようになる。

(2) 次回について

- ・本日の議論を踏まえ、まとめた提言の内容について、検討する。
- ・次回は、1月20日(水)午後3時から第7会議室で開催。

以 上